



Hokkaido community and school collaboration

# 地学協働

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

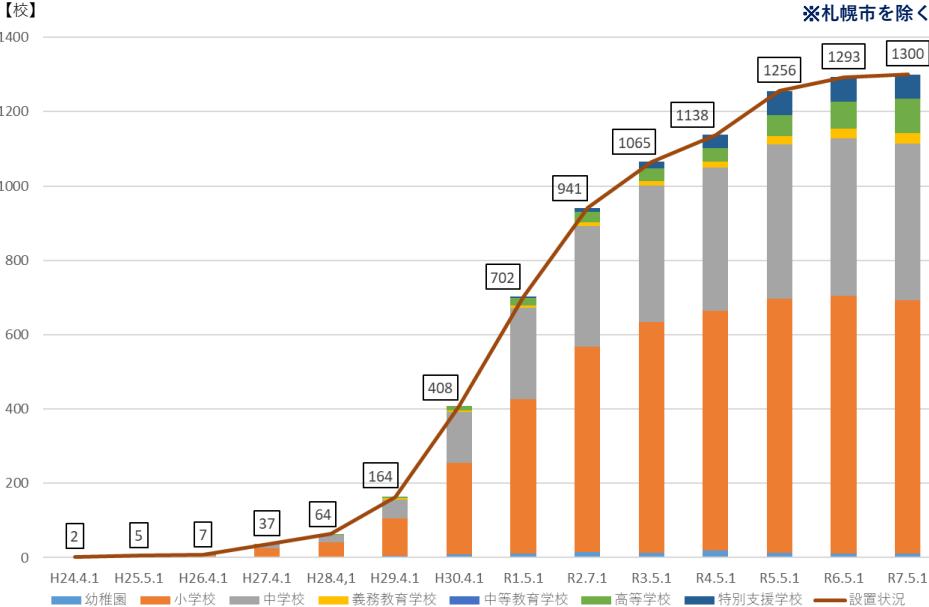
バックナンバーは  
こちらからお買い  
いただけます。

2026年1月  
No.40

## 1 全国調査からみる北海道の地学協働の取組vol. 2

### 全道の公立学校におけるコミュニティ・スクールの数の推移

※札幌市を除く



前号に続き、文部科学省「令和7年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（令和7年5月1日現在の状況）から北海道のコミュニティ・スクール（以下、CS）の推移について報告します。

北海道は、各学校の統廃合が進む中でも、CSの導入は着々と進んでおり、全国（64.9%）と比べ、導入率は高い（+23.9%）といえます。

R8年度からは、教員の働き方改革を契機にCSの取組がますます重要になると考えられ、目指す子ども像や学校の課題を共有するためにも、CSで行われる『熟議』が有効だと言われています。下記に道内の顕著な事例を紹介します。

# 【道東ブロック】地域と学校の連携推進協議会

## 兼 釧路市地域学校協働本部主催ボランティア研修会 実施報告

開催日：令和7年（2025年）10月15日（水）

主 管：釧路教育局

開催地：【釧路会場】釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」

参 加 者： 52名

【十勝会場】十勝総合振興局

【根室会場】標津町生涯学習センター「あすぱる」

道東ブロックでは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するため、行政、学校、地域学校協働活動推進員等の役割や取組について理解を深めることを目的に、校長経験のある教育局義務教育指導監、地域学校協働活動推進員（地学協働コーディネーター）による講演や各地域における課題や今後の取組について協議を行いました。

### 1 講 演 「地域の状況に応じた取組の実際及び成果と課題について」

学校と地域の「つながり」づくりにむけて 北海道教育庁釧路教育局義務教育指導監 津田 裕匡 氏

#### 4 これからの「つながり」づくりに向けて

- ☆ 参加者を~近隣校との合同開催
- ☆ 熟議の結果を学校経営にどう反映させるか
- ☆ 教育委員会、教育局のさらなるバックアップ
- ☆ 地域学校協働推進員等のありがたさ
- ☆ 児童生徒との共有
- ☆ 地域の潤い 活性化 WIN-WIN
- ☆ 地域の代表としての受信と発信

#### 【主な内容】

- ・学校と地域が互いに対して、どのようなことを期待しているのか、両者の思いを熟議（対話）を通してつなぐことが重要。
- ・熟議の内容を学校経営に反映させるとともに、コミスクだより等で地域に発信して理解を広げていくことが、地域学校協働活動にもつながる。
- ・「子どもは地域の宝」。学校と地域が協働し、ともに学び合い、支え合う関係を築くことが、これからの教育の基盤になる。



高校生と地域の「つながり」から 北海道弟子屈高等学校地学協働コーディネーター 川上 棕輔 氏

#### 教育現場に入って感じること

先生忙しすぎる・

学校内完結による限界（探究授業）

2年間で異動しちゃう管理職

人（教員）に依存しがちなシステム

#### 【主な内容】

- ・学校リーフレットやポスターの作成を地域人材に依頼。学習活動以外のクリエイティブな作業を地域移行することで、教員の業務軽減へ。
- ・学校の活動や地域の魅力を、生徒と一緒にYouTubeやインスタグラム等で積極的に発信。
- ・生徒が地域の大人や専門家とのつながりから、地域課題に向き合い、学校外の活動にも取り組み始めている。
- ・地域が学校の実情を踏まえながらも、「しがらみ」等にとらわれることなく意見を伝えていくことで、新たな価値への気付きや取組につながる。



### 2 協 議 「みなさんD0してます？～学校と地域の連携・協働のホンネ～」

参加者それぞれの立場における学校と地域との連携・協働の課題等について、今後の取組を明確にすることを目的として各会場でグループ協議を行いました。

#### 【協議で出された意見（一部抜粋）】

- ・地域からの協力者を増やすために、学校のニーズや地域の思いを汲み取ることができる事務局づくり、活発な意見交換ができる会議が重要。
- ・社会福祉協議会のボランティア等、他の人材バンクを共有することがボランティア人材不足の解決になるのではないか（他機関との横のつながり）。
- ・有償ボランティアについて検討することも必要ではないか。
- ・一般の教職員と熟議を実施し、現場の先生方の困りごとを聞きたい。



協議の様子（十勝会場）

【講 評】釧路市地域学校協働本部 総括的な地域学校協働活動推進員 森 敏隆 氏

今日、ネット利用に関わる問題等、学校と家庭が連携して取り組まなければならない課題が多い。地域や学校の課題解決に向けた話し合いができる場づくりが肝心です。



## 子どもから大人まで、 “読む” 楽しさをすべての人に

読書と聞くと、多くの方が「紙の本を取り、印刷された文字を目で追って読むこと」を思い浮かべるかもしれません。しかし、読書のかたちはそれだけではありません。点字図書や大活字本、オーディオブックなど、本の形式はさまざまで、読む方法も触れて読む、音で聴く、写真や絵で理解する、補助具を使うなど、多様なスタイルがあります。

こうした多様性に対応し、障がいや病気、使用的する言語などに関わらず、全ての人が読書の楽しさや知識に触れられるようにする取組が「読書バリアフリー」です。読書は、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠かせないとも言われます。人生100年時代、全ての人がいつでも読書を楽しめる「読書バリアフリー」な社会の実現に向けて、私たち一人一人の理解と協力が求められています。

やさしい日本語への書き換え例



## 「一般的な読書」が楽しめない理由

## 自分に合う方法を探してみましょう（例）

目が見えない	→ 点字、音声（DAISY図書、音訳図書、オーディオブック等）
目が見えにくい	→ 大活字本、拡大鏡や拡大読書機、電子書籍（拡大や色の反転）
手足や身体が不自由	→ 音声、電子書籍（ページめくりを助ける機能）
目で文字を追うのが難しい 読みたい部分に集中しにくい	→ リーディングトラッカー、電子書籍（ハイライト表示）、音声
文章が分かりにくい（理解しにくい）	→ L Shブック（短い文や写真、絵、記号等で分かりやすく読める本）、 ふりがなや読みやすいフォントを使った本
耳が聞こえない	→ 手話付き動画、マンガ（ふきだしやト書きで会話がわかりやすい）
日本語が苦手	→ やさしい日本語、ふりがな、日本語多読の本

## 道立図書館のサービス

## ■障がいのある方が使える

- ・国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス
- ・サピエ図書館  
(点字図書や音訳図書等の取り寄せやタウンロードができるサービスです。)  
・心身障害者用ゆうメールによる郵送貸出



道立図書館「高齢者・障がいのある方へのサービス」も御覧ください。  
<https://www.library.pref.hokkaido.jp/web/guide/nk8et3000000007k.html>

## ■誰でも使える

- ・読書補助具の館内利用  
(ルーペ、音声読書機、照明拡大鏡など)
- ・各種のバリアフリーな資料※  
2階一般資料閲覧室には  
「りんごの棚」もあります。

※一部の資料は、著作権の都合上、利用・貸出とも障がいのある方に限られます。  
詳細は職員にお問い合わせください。

## ■図書館・学校向け

- ・テーマ別サポートブックス  
「バリアフリーセット」

点字絵本、LLブック、マルチメディアDAISY、大きな文字の青い鳥文庫など、約24点の資料がセットで借りられます。



## DAISY (デイジー)

「デジタル録音図書」の規格のことで、パソコン等を使って、音声と一緒に文字や画像を表示させることができるものには「マルチメディアDAISY」と呼ばれます。



## りんごの棚

スウェーデンで始まった「バリアフリー図書の棚」のことです。図書館にある“利用しやすい形の資料”を1か所に集めることで、探しやすくなります。

「りんごの棚」のロゴマークです



社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関するこことについても取り組んでいます。今号は、道内の2管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

## 【渡島管内】保護者・児童が参画する本に親しむ環境づくり（八雲町立山越小学校）



保護者による読み聞かせの様子

### 保護者による読み聞かせ会の実施

山越小学校では「みんなの読書語り」という時間を設定し、授業参観日に合わせて年3回、保護者によるおすすめ本の読み聞かせが行われています。読む本は、事前に教員と保護者で相談して種類や内容を決めており、読み聞かせた後は学校図書館に展示されるなど、児童の学校図書館利用のきっかけとなっています。また、会に参加した他の保護者が、紹介された本の魅力を知り、各家庭で購入して読むという動きもあり、家庭で本に親しむ環境づくりにつながっています。

## 児童が主体的に活動する学校図書館

全校児童8名の山越小では、図書委員が中心となって、読書スタンブラーの企画・運営をしたり、開館日カレンダーの作成や購入希望図書のアンケートを実施したりするなど、児童が主体的に学校図書館の運営に関わっています。また、図書委員会では、自作のお話を絵本にする活動もしており、創作した児童本人が学校図書館で作品の読み聞かせをする機会を設けるなど、様々な視点から本に親しむ環境づくりを行っています。



自作絵本を先生や友だちに披露

## 【釧路管内】読書への興味を引き立たせる環境づくり（厚岸町立真龍小学校）



↑地域の方の工作と  
関連本の展示  
←くま館長

### 居心地のいい学校図書館づくりから始まる読書活動

真龍小の学校図書館では、「くま館長」が子どもたちを温かく迎えます。本の紹介POPや読書イベントの掲示、オススメ本や季節行事に関連する装飾などが、子どもたちの興味を引きます。また、図書館の中央部には背の低い本棚が並んでおり、子どもの目線を遮ることなく図書館全体を見渡すことができ、安心感があります。「図書館に行きたい」「楽しい」「落ち着く」がつまった居心地のよい環境づくりに、学校司書や子ども、教職員、ボランティアなど学校全体で取り組んでいます。

### 多くの本との出会い、そして選書力向上へ

子どもや教職員が読んだ本を紹介するコーナー「読書伝言板」、町図書館と連携したブックフェスティバル、ボランティアの「真龍おはなし隊」や「ちいさな絵本箱」による読み聞かせなど、子どもたちが様々な本に出会えるような取組を行っています。また、自由な読書を大切にしながら、子どもが自分に合った本を自ら選ぶ力（選書力）が高まるように、内容や文章量等を分かりやすくレベル分けしたり、常駐する学校司書が本選びの手伝いをしたりしています。



上段: レベル3 内容がしっかりしている本  
下段: レベル2 短くておもしろい本



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

●掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>